

公益財団法人岩手県文化振興事業団 第21回評議員会議事録

1 開催日時 令和5年6月13日(火) 午後1時30分～午後2時50分

2 開催場所 サンセール盛岡 1階 エメラルド

3 出席者 評議員総数 9名  
出席評議員 5名  
評議員 佐々木 民夫 評議員 高橋 信雄  
評議員 中村 光紀 評議員 藤澤 清美  
評議員 眞下 卓也  
出席理事 4名  
理事長 石田 知子 理事 泉 裕之  
理事 高橋 廣至 理事 藁谷 収  
出席監事 2名  
監事 佐々木 恵太 監事 田村 均次

4 議長 評議員 佐々木 民夫

5 決議事項

議案第1号 公益財団法人岩手県文化振興事業団評議員の選任について

議案第2号 令和4年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録の承認について

議案第3号 公益財団法人岩手県文化振興事業団理事の選任について

議案第4号 公益財団法人岩手県文化振興事業団監事の選任について

## 6 報告事項

報告事項 令和4年度事業報告及び附属明細書について

## 7 議事の経過の要領及びその結果

定刻、事務局長が、本評議員会は、定款第20条の規定に定める定足数を満たしており、適法に成立した旨を告げた。次に、本日の決議事項に特別の利害関係を有する評議員がいないことを確認した後、開会を宣した。

石田理事長の挨拶の後、定款第19条の定めに従い、出席した評議員の互選により選出された佐々木民夫評議員が議長となり、以下の議事を進行した。

なお、議事録署名人については、議長一任とする提案がなされたので、議長は、高橋信雄評議員と中村光紀評議員を指名、全員異議なく承認され、両人も承諾した。

### [決議事項]

#### (1) 議案第1号 公益財団法人岩手県文化振興事業団評議員の選任について

議長は議案第1号を上程し、総務部総務課長から別紙議案書に基づき説明がなされ、候補者ごとに賛否を諮ったところ、候補者を除き全員異議なくこれに賛成したので、次のとおり選定した。

評議員 住所 盛岡市東新庄 2-25-12  
氏名 佐々木 民夫

同 住所 盛岡市南仙北三丁目 14-48  
氏名 柴田 道明

同 住所 紫波郡矢巾町南矢幅 9-203  
氏名 鈴木 淳

同 住所 盛岡市西松園 3-16-7  
氏名 高橋 信雄

同 住所 盛岡市津志田 14-37-2  
氏名 多田 英史

同 住所 盛岡市茶畑 1-8-13  
氏名 中村 光紀

同 住所 盛岡市東見前 1-42  
氏名 藤澤 清美

同 住所 紫波郡紫波町中島字落合 24-12  
氏名 藤田 芳男

同 住所 盛岡市門 1-13-5  
氏名 眞下 卓也

#### [報告事項]

#### (2) 報告事項 令和4年度事業報告及び附属明細書について

議長から、議案第2号と報告事項とは関連があるので、報告事項の令和4年度事業報告を行い、その後に議案第2号を決議することについて提案があり、全員異議無く承認された。

令和4年度事業報告については、別紙議案書に基づき、総務部総務課長、県民会館業務管理課長、埋蔵文化財センター総務課長、博物館副館長及び美術館副館長から説明がなされ、全員異議なくこれを了承した。

#### 〈質疑事項等〉

##### 【評議員】

先ほど、県民会館からの報告にあったように、自主事業の「岩手の民謡をたずねて」は19年もお世話になっている。共催には感謝申し上げる。

一方で、岩手芸術祭舞台等部門には16団体あり、県民会館大ホール、中ホールを使用しているが、年々会場費、機材使用料が高騰している。それだけでなく、舞台を運営するスタッフが県民会館だけでは足りないということで、専門の企業に依頼している。これを合わせた数字が相当なものになっている。

民謡協会の場合で申し上げますと、総経費の5分の3くらい、100万円近いお金が

舞台の方に使われており、去年は赤字になってしまった。

そこで、検討をお願いしたいことであるが、使用料は条例等で決まっていると思うが、岩手芸術祭は無料奉仕、ボランティアでやっているわけなので、そういう営利を目的としない純粋な文化芸術活動に対する減免措置を検討していただきたい。減免の規程があるのではないかと思うが、無ければ入れることを期待したい。

入場料を上げるとか、いろんな方法はあるのだが、多くの方々に来てほしいという観点から入場料は上げたくない。200名近い出演者が、みな無料奉仕で頑張っている。その中にはプロもいるが全部無料である。そういう中で、純粋に文化芸術の普及、発展のためにやっている。

これは、民謡協会だけではなく、16団体すべて同様ではないかと推測している。それらに対する減免をお考えいただけないものか。そろそろ県民会館では立ち行かないという状況にあるので、なんとか検討をお願いしたい。

#### 【県民会館業務管理課長】

貴重な御意見ありがとうございます。減免規程については県から示されていて、国と県が主催する公益的事業のほか、高等学校、中学校における文化活動とか、高文連、中文連主催事業の100パーセント減免が決まっている。

岩手芸術祭の関係、ただ今、藤澤評議員からお聞きした内容については、県の主管課にお伝えし、検討をお願いしたいと考えている。

#### 【評議員】

今の件に関連し、昨年度からの物価高騰を受け影響が出てくるものと考えている。収益事業だけではないので、いろいろな事業を文化振興事業団全体として考えていただく必要があると思っている。県との関係もあると思うが、文化振興というベースを持ちながらお考えいただきたい。私からもお願いする。

#### 〔決議事項〕

- (3) 議案第2号 令和4年度計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)及び附属明細書並びに財産目録の承認について

議長は議案第2号を上程し、総務部総務課長から別紙議案書に基づき説明するとともに、佐々木監事による監査報告がなされ、その賛否を諮ったところ、全員異議なくこれを承認可決した。

(4) 議案第3号 公益財団法人岩手県文化振興事業団理事の選任について

議長は議案第3号を上程し、総務部総務課長から別紙議案書に基づき説明、候補者ごとに賛否を諮ったところ、全員異議なくこれに賛成したので、次のとおり選定した。

理事 住所 紫波郡矢巾町大字南矢幅第8地割360

氏名 石田 知子

同 住所 盛岡市住吉町13番30-1304号

氏名 泉 裕之

同 住所 一関市三関字神田167-4

氏名 岩 淵 計

同 住所 盛岡市北松園2-24-4

氏名 熊 谷 常正

同 住所 岩手郡岩手町沼宮内7-21

氏名 柴 田 和子

同 住所 奥州市水沢字水山82の2

氏名 菅 原 義子

同 住所 盛岡市仙北1-15-9-705

氏名 高 橋 廣至

同 住所 盛岡市上田堤1-12-15

氏名 藤 澤 修

同 住所 盛岡市山王町11-50

氏名 藁 谷 収

(5) 議案第4号 公益財団法人岩手県文化振興事業団監事の選任について

議長は議案第4号を上程し、総務部総務課長から別紙議案書に基づき説明、候補者ごとに賛否を諮ったところ、全員異議なくこれに賛成したので、次のとおり選定した。

監 事 住所 盛岡市北飯岡二丁目6番35号  
氏名 佐々木 恵 太

同 住所 奥州市水沢朝日町1-7  
氏名 田村 均 次

8 その他

《各評議員からの意見・質問等》

【評議員】

県立美術館の企画展であるが、「東北へのまなざし」という展覧会で、これはブルーノ・タウト、柳宗悦、今和次郎等の絵を通して、昭和の初めから戦中までの東北の暮らしの美を見つめなおした展覧会であった。大変時宜にかなったユニークな企画だったと思う。これからも、このように掘り起こしのような企画をやってもらいたい。

それから、県民会館は今年開館50周年である。それまではコンサート会場もないし、大型の展覧会をやる場所もないという状況だったので、県民待望の施設として県民会館がオープンした。50年前に私も岩手日報社にいて、2001年に県立美術館がオープンするまでの28年間、県民会館で大型の展覧会を年2回ずつやったので、トータルすると50本以上の展覧会を企画してきた。県民会館がオープンして半世紀というのは感慨深い。

特に、ブリヂストン美術館のときは、青木繁の海の幸、藤島武二の黒扇という重要文化財を展示できた。貸会場で重要文化財を展示するというのは、なかなか文化庁がオーケーを出さないのだけれど、新しい施設ということでオーケーを頂いたという思い出もある。それから、ロダン展もやって6万人を超える入場者数という記録を作ったこともある。

このように美術展の企画に携わったが、新型コロナの影響が回復になったので、これからコンサートや美術展など、大いに盛り上げていくことを期待している。

**【監事】**

こういった形で監事を務め、ようやく職務を通じて中身がわかってきたかなという印象である。監事監査の際などに話を聞いて、初めてわかったことも毎年ある。

今後、制度等も変わってくるので、対応しなければならないことも出てくる。そういう運営の部分でサポートできればいいかと思っている。今後ともよろしく願いしたい。

**【監事】**

先ほど藤澤評議員から民謡協会事業の開催経費のお話があったが、もう一つ、私の知り合いの話だが、後継者不足で非常に困っているということだ。私と同世代の方がいつまでも最年少で、若い人が入ってこないという話を聞く。

文化振興事業団の事業に馴染むかどうかはわからないが、担い手育成という部分でも目配りしていかないと、芸術祭の開催自体が危ぶまれる時代も来るのかなと懸念している。そういった広い視野で、芸術文化の振興に取り組んでいただければありがたい。

**【評議員】**

県民会館 50 周年ということで、県立博物館も 40 数年になると思う。昨年、階段の改修を実施したようだが、40 年以上も過ぎると建物だけでなく様々な機器が経年劣化してくる。

したがって、保守点検を計画されていると思うが、こういうものは悪くなってから修繕するよりも、事前にやった方が経費的にも軽減できるのではないかと思うので、ぜひメンテナンスというか点検を十分にやってほしい。

**【評議員】**

先ほど申し上げたので、再度、よろしく御検討をお願いしたい。

5 月に東京の国立近代美術館において「重要文化財の秘密展」を観に行ってきた。あのクラスを企画展として持ってくるのは不可能かもしれないが、企画展は県民にとって魅力である。かつては若冲とか、横山大観とか沢山来た。そのようなビッグ

な企画展をこれからも企画してほしい。

それから文化振興基金、これには民俗芸能等でお世話になっているが、どんどん原資が減っている。令和3年度から4年度にかけて500万円ぐらい減っている。先行きどうなるのか心配なところがあるが、これからも継続し、また、原資を元に戻せるように努力をお願いしたい。

#### 【評議員】

本日、改めて文化振興事業団の色々な事業の報告を聞き、幅広い分野で頑張っていると頭の下がる思いである。私どもIBC岩手放送でも文化的事業を色々行っているが、どうしても利益を確保するという話になってくると、なかなか難しい部分もある。

一方で、文化的なところが充実しているかどうかというのは、その地域の魅力と直結する部分だと思うし、住んでいる人々にとってもそういうところがしっかりとできている地域というのは魅力のあるところだと思うので、引き続き頑張っていたきたい。

#### 【評議員】

コロナ禍が始まって3年半という状況であるが、5月8日には感染症法上の分類が5類に引き下げられたということで、様々な制約が取り払われた。人の動きも確実に活発化してきている。先週土曜日にチャグチャグ馬つこがあり、通常通りの開催ということになったが、過去最大の20万人以上の観客が来たという状況だった。

1月に、ニューヨークタイムスの「2023年に行くべき52か所」の発表があったが、ロンドンに次ぐ2番目に盛岡市が紹介されたということで、海外はもちろん国内でも注目を浴び、あちこちから取材が来ている。外国人はもちろん、国内からも観光客がたくさんみえている。

盛岡歴史文化館でも、総入館者数がコロナ禍前の水準に戻りつつあるが、外国人の比率はコロナ禍前をかなり上回っている。来年になると、また別な52か所か53か所が発表されるので、今年が勝負だろうと。今年来た方々が「良かった」と思い、周りにも宣伝して貰えるような状況を皆で作っていかねばならないと思う。盛岡歴史文化館では、多言語の音声ガイドシステムを導入したり、館内のサインや英語表記も見直し、外国人に対するきめ細やかなサービスができるように工夫しているところである。

先ほど、本宮地域の県立美術館と、市の先人記念館や子ども科学館等と連携した取組みをやっているという話があったが、街中でも情報交換をしながら、インバウンド含めて様々なお客様をお迎えできるよう、施設全体として工夫、対応していく必要があると考えている。単独の館だけでなく、施設が連携して対応できるようになるのが、盛岡としても県全体としてもパワーアップに繋がっていくと思うので、ぜひ協力してやっていきたいと思っている。よろしく願います。

### 【評議員】

今、ニューヨークタイムスの件について柴田評議員からお話があったが、単なる観光客の誘致ということではなく、改めて岩手の文化芸術を全体的に、文化振興事業団が管理している施設を含めて、裾野を広げて発信していくということと思うので、よろしく願います。

報告書を拝見し、コロナ禍の中、色々な取組みを行っていることに敬意を表する次第である。入館者数等も回復しつつあるということで、これからの期待する。

アーカイブスに関わってくることで、それぞれの取組み中で性格は違うのだろうが、紙媒体で保管すると同時にPDFに切り替えが進んでいる。これらの情報をどのような形で記録として保管するのか、紙媒体のままなのかデータとして記録するのか、全体的に切り替えの時期というか、方針を定めなければ厄介という気がしている。文化振興事業団でなくとも、資料のことについてお考えいただければと思う。

DXの時代の中で、文化振興事業団が持っている文化芸術とDXをどう絡ませていくのか、新しい時代への方向性を見い出していったらいいのではないかという気がする。以前、岩手県文化振興審議会の会長をさせていただいたが、そこで話題となった後継者不足とともに、美術館、博物館における情報発信について、従来型のメディア対応とは全く違う形で情報を入手したり、発信しており、そういうものに対応する必要が出てくるのではないかと思う。これもやはり、それぞれ文化芸術の可能性なりDXに絡ませて、どのような形で行うべきなのか検討する必要性もあるのかという気がする。

少しややこしい話になったが、同じ形で経年比較はいいとしても、それぞれの館の中で新規事業というか、これからの文化振興についてどういうことをやっていけばいいのだろうということを常々お考えと思うが、あまり先例、前例にとらわれることなく、新しい基軸で考える方向で検討いただければいいのではと思う。

いずれ大変な時期であるし、先ほどの値上げとか何かのときに、それに見合うく

らの収益性であれ、文化振興がどんな中でやっていくのかということも大事なことでと思うので、その点も含めて文化振興事業団全体の中でもお考えいただければと思う。

**【理事長】**

評議員の皆様からいろいろと御意見等頂き、本当にありがたく思う。私自身も、実際に事業団の中で運営に携わる者として、外から見ていたときとは違い、40年、50年経過している施設の運営は難しいというのが正直なところである。

その中で、県民に文化芸術の機会を提供するというのが一番大事な仕事であるので、そこはブレずに職員一丸となってやっていきたい。

文化振興基金の話も出た。当事業団は、元々、文化振興基金を運営するためにできたという面があり、金額はなかなか難しいが、運用の仕方については、どのような形で皆さんに使っていただくかというのを、事業団の中で検討しているところである。

また、情報発信のあり方についても、いろいろとやり方を工夫していかなければならないことはあるが、今後とも皆様の御協力と御知恵を拝借しながら、連携してやっていきたい。よろしく願います。

議長は、以上をもって議事の全部の審議及び報告を終了した旨を述べ、午後2時50分閉会した。

9 議事録作成者 事務局長 藤澤 修

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び議事録署名人2名がこれに記名押印する。

令和5年6月30日

公益財団法人岩手県文化振興事業団 第21回評議員会

議 長

印

評議員

印

評議員

印